

ぶら まち

ぶ ら り 発 見 ! ま ち づ く り

～協働のまちづくり事例集～

平成 31 年 3 月
飯 島 町

はじめに

全国的に「地方創生」が唱えられる中、本町においても、人口減少・少子高齢化に代表される課題が山積しています。

さまざまな社会状況の変化や課題に的確に対応するためには、行政だけでなく、町民、自治組織、各種団体等がそれぞれの役割を認識し、それぞれの主体が協力し合ってまちづくりを行っていく「協働のまちづくり」が重要な要素の一つです。

町では平成 28 年度に第5次総合計画後期基本計画を策定し、協働のまちづくりを基本の柱の一つとし各種施策を進めるとともに、協働のまちづくり推進事業補助金を定め、「地域をよくしていきたい」「こんなまちづくり活動をしてみたい」という町民の皆さんによる自主的・自立的な活動を支援してきました。

この事例集は、過去に町内で実施された取り組み等を紹介することで、「協働のまちづくり」について理解を深めていただくことを目的として作成したものです。誌面の都合上限られた範囲ではありますが、「協働のまちづくり」の観点から特色のある事業を選定しました。なじみの深いイベントも、或いは今まであまり知らなかった事業も、「これも協働のまちづくりなんだ」という発見をしていただけたら幸いです。

町と町民の皆さんの力を結集することが「協働のまちづくり」の原点です。力を合わせ飯島町の未来を共に創っていきましょう。

協働のまちづくりの定義について

町民、自治組織、団体、事業者及び町がそれぞれの役割を認識し、それぞれの主体が目的達成のため良きパートナーとして協力して課題解決に取り組むことを指します。

(飯島町第5次総合計画より)

事例1

米俵マラソン実行委員会

飯島町米俵マラソン 事業



事業実施年度
平成 25 年度～



【この事業の目的】

飯島町は県内有数の米の産地であり、耕地面積の8割を稲作が占めている。

米俵をテーマにしたまちおこしを行うことにより地域を巻き込んで農業や地域を活性化し、観光客を誘客するとともに飯島町の知名度を上げ米の消費拡大とわらを使った6次産業化を図る。

【事業内容】

・米俵マラソンの開催

【事業をやってみて】

ボランティアスタッフ、沿道の応援や後方支援、物品の提供、協賛を含め、多くの地域住民の参画により大会の実施ができ、米俵によるまちづくりの広がりを実感した。

米俵マラソン時の食のイベント「飯島町ご飯ですよ」では2俵の米を完食するなど米の消費拡大に貢献できた。

【ここがポイント!!】

●飯島産の米を使用しPRすることで生産者の増収を計り、交流により米文化を継承し、販路拡大への取り組みを考える共同作業が行われる。

事例2

「そばの里信州いいじま」協議会 そばの里づくり 事業



事業実施年度
平成 25 年度～



【この事業の目的】

そばを地域の特産品として位置付け、生産者、販売店、団体個人の地域協働を進め、地域の特色及び個性を生かした産業振興とまちづくりを行う。

【事業内容】

- ・そば店、加工販売店、まちづくり団体と連携し、寒晒し蕎麦・新蕎麦祭りの取り組みを調整する。
- ・会員店舗や団体、個人ホームページによる情報発信
- ・「そばの里信州いいじま」寒晒し蕎麦祭りの開催
- ・「そばのふる里いいじま」第2回新蕎麦

祭りの開催

- ・寒晒し蕎麦の仕込み作業実施
- ・会員の勧誘と事業検討

【事業をやってみて】

蕎麦店・菓子店・各地区農業法人・蕎麦の会参加による「寒晒し蕎麦祭り」「新そば祭り」を通じて町内外に「そばの里」をPRできた。また、統一イベントを実施したことにより協議会の機運が盛り上がり、次年度も更なる「蕎麦の里づくり」に力を注ぐことになった。

イベントの実施により各店舗の来客数が増加し、町外県外の誘客効果と考えられる。徐々に「蕎麦の里いいじま」が拡大定着してきた。

【ここがポイント!!】

- 「そば」を核として、生産者・店舗・団体・個人が協力してイベントを開催。
- 住民所有のHP等による一斉の情報発信を行う。

事例3

越百づくり会議

旧コスモ21の跡地利活用 事業



事業実施年度
平成 26 年度～



【この事業の目的】

旧コスモ21の跡地利活用を中心に、飯島町のまちづくり、まちの活性化策を研究し、実行する。

【事業内容】

- ・まちづくり講演会の実施
- ・越百づくり会議設立
- ・役員会・総会の実施
- ・先進地視察

【事業をやってみて】

旧コスモ21の跡地利活用として、町、医療生協や各種まちづくり団体と連携した「こすも市」を6月から11月まで月1回開催し、具体的なまちづくり活動につながった。

多様な団体の関係者が集まることで、飯島のまちづくり、地域活性化について議論が深まった。

【ここがポイント!!】

- 地域住民と町、関係団体が協力して、新たなまちづくり事業を具体的に立案して進める。
- 会の立ち上げや事業の企画段階から多様な団体関わっている。

事例4

アイタウン協同組合

花桃街道ウォークラリー 事業



事業実施年度
平成 25 年度～
平成 28 年度



【この事業の目的】

伊南バイパス延長に伴い車や人の流れが変わり、商業活動などが衰退することが心配されている。

中心市街地に人を呼び込むためのウォークラリーイベントを開催することで赤坂周辺の商業地の活性化を図る。

【事業内容】

- ・アイタウンから花桃街道をコースとしたウォークラリーイベントの開催
- ・花桃街道PRのためのフォトコンテストの開催

【事業をやってみて】

参加者からは次回も是非参加したい等の評価を多くいただいた。

同時開催のフォトコンテストでは多くの応募があり、花桃街道のPRにつながった。

将来花桃が成長すれば、より一層この地域の景観の素晴らしさをPRでき、町に人を呼び込む流れができる。

【ここがポイント!!】

- 地域住民が楽しめるイベントにすることで、多くの住民の積極的な参加を募る。
- 事業を通じて町や花桃街道の景観の素晴らしさを町外にもPRできる。

事例5

越百園マレットゴルフ場管理運営委員会 栗の里マレットコース造成事業



事業実施年度
平成26年度～
平成28年度



【この事業の目的】

越百園に隣接している遊休農地を活用した「福祉の森(栗の公園)」を作る一環として、栗の木の間を活用したマレットコースを設置し、地域の健康づくりなどに貢献する。

【事業内容】

・マレットゴルフを行うためのコースの整備(芝の設置、防球ネット・マットの設置)等

【事業をやってみて】

地域の有志による協働作業でコース整備が完了した。

子どもから高齢者まで幅広い年代層の交流が見込まれ、また、年間を通じて活発な交流が期待できる。

【ここがポイント!!】

- コースの設置は、地域の有志と福祉施設との連携協働による手作業で行う。
- 地域協働により、生活環境の整備や地域の健康づくり活動が行われる。

事例6

飯島町国際協力会

北朝鮮拉致被害者 蓮池薫 講演会 事業



実施年度
平成27年度



【この事業の目的】

飯島町国際協力会では、「小さな国際都市いいじま」を標榜する飯島町において、国際問題化して久しい拉致の被害者の一人である蓮池薫氏をお呼びして拉致問題に関する講演をしていただくことにより、人権や、極限下の生き方、国際問題解決及び拉致被害者救済の支援について、地域の生涯学習に資する。

【事業内容】

- ・北朝鮮拉致被害者の一人である蓮池薫氏の講演会を町文化館で開催(町、町教育委員会と連携して開催)

【事業をやってみて】

町や町教育委員会だけでなく、商工会や金融機関の協賛を得ての開催とすることができた。

300名を越える入場者数となり、多くの地域住民が蓮池薫氏の講演会を通じ拉致被害への理解、国際問題への関心を深めることができた。

【ここがポイント!!】

- 人の尊厳を考える人権教育や、国際問題としての拉致被害の実態を学ぶことで、住民の理解を深めるなど、事業が地域の生涯学習に資する点。



ぶら まち
ぶらり発見！まちづくり

事例7

伊那谷花卉生産者若手会

地元飯島産の生花で成人者をお祝い!! 事業



実施年度
平成27年度～
平成29年度



【この事業の目的】

飯島町は花卉栽培が盛んな地であるが、それに付随したイベントは少なく、町民への花卉栽培の情報提供も乏しいのが現実である。そこで、成人式参加者へ飯島町の花卉栽培の情報を発信するとともに、実際に飯島町産生花を飾っていただき飯島への郷土愛を深めてもらう。

【事業内容】

・花卉生産者有志による飯島町産生花（アルストロメリア、カーネーション、バラ等）を使用した花束づくり

・成人式での花束の配布及び花卉産業の情報発信

【事業をやってみて】

飯島町が花卉栽培で盛んな事を新成人に伝えることができた。

成人式実行委員会と連携し事業を実施することができた。

【ここがポイント!!】

- 生産者と町の将来を担う新成人者が町内産の花束でつながりを持てる。
- 町の花卉産業について知ってもらうことで花卉産業を盛り上げていく。

事例8

越百クラブ

まちの駅いいちゃん 無人販売 事業



実施年度
平成 27 年度～



【この事業の目的】

生産者が気軽に低コストで楽しく運営できる直売施設を設置し、農業の活性化・地産地消を目指すとともに、販売により生産者と消費者のコミュニケーションを増やし、まちの駅を中心とした地元活性化に貢献する。

【事業内容】

- ・まちの駅いいちゃん内に無人販売所を設置
- ・「こすも市」「夕方市」への出店
- ・若手農業者グループ「BTW」と連携した事業実施

・ドーム菊によるまちなか活性化事業

【事業をやってみて】

まちの駅いいちゃんへ訪れる人が増え、販売品を通じて生産者と消費者の交流につながった。生産者はやりがいをもって農業に従事できている。

また、まちの駅いいちゃんに関係するイベント等にも関わるようになり多くの人を巻き込んだ飯島町の活性化につなげられる下地ができてきた。

【ここがポイント!!】

- 本事業により生産者と消費者の交流が増え、遊休荒廃地や後継者等の農業の諸問題を消費者と一緒に考える機会をつくり、行政や農業関係者だけでなく、町民全員を巻き込んで飯島町の将来や活性化について考える機会を作ることができる。

事例9

BTW

飯島町ヒマワリPJ(プロジェクト) 事業



実施年度
平成28年度

【この事業の目的】

花を育てることの楽しさや難しさ、花を見ることの良さを多くの園児、児童生徒に体感してもらう。

赤坂の線路沿いの畑にヒマワリ畑をつくり多くの方に楽しんでもらう。

【事業内容】

- ・町内保育園及び小学校にヒマワリの苗とプランターを配布
- ・赤坂線路沿いのヒマワリ畑の作成・管理

【事業をやってみて】

保育園・学校に配布したことで、生産者と園児、児童生徒や学校の先生とつながりを持つことができた。

赤坂のヒマワリ畑は多くの方が訪れている様子が伺え、当初の目的を達成することができた。

【ここがポイント!!】

- 花の里いじまとしての新たなチャレンジ
- 園児から児童生徒まで同じ花を育てることで一体感を感じることができる。
- 赤坂のヒマワリ畑は新しい飯島のビュースポットになる可能性も。

事例 10

くつろぎ応援団

「成人式My焼酎で乾杯」企画 事業



実施年度
平成28年度～



【この事業の目的】

10年前(今年成人式を迎える方々)に仕込んだ芋焼酎で、「成人式」で乾杯する。

また、毎年クラス会等で同内容(焼酎で乾杯)を計画実施することで、来町を促す。

【事業内容】

- ・今年成人式を迎える方々が小学生の時に作った焼酎で、成人式に乾杯をする日本初の企画

【事業をやってみて】

成人式実行委員会と連携し事業を実施することができた。

乾杯だけでなく、写真撮影や祝賀会、ミニコンサートを実施し成人者に楽しんでもらえるよう工夫をした。

この事業を機に、町外の若人も頻繁に帰省してもらい「365 日同窓会の町」企画に繋げたい。

【ここがポイント!!】

- この事業を機に、飯島町の飲食店が連携して新たにグループを作り、今後もクラス会・同窓会等を企画していく構想。
- 毎年当町に来ていただくことで町への愛着を高め、後々Uターンをしてもらう定住促進の企画に繋げていく。



ぶら まち
ぶらり発見！まちづくり

事例 11

いいじま手打ち蕎麦の会

町民とのイベントの参加による蕎麦打ち 事業



実 施 年 度
平成 29 年 度 ~



【この事業の目的】

飯島町は蕎麦の生産や種子蕎麦の生産地として盛んに生産活動が行われている。

イベントの参加で手打ち蕎麦を提供して、地域の皆さんとの交流を行い、地域の活性化を図りたい。又、町外において、蕎麦を通じて交流を行い、「蕎麦の町飯島」のPRを図りたい。

【事業内容】

- ・各イベントへの参加
こすも市(6回)

与田切公園桜まつり

あんどん市

フェスティバル in 与田切

いいちゃん産業まつり

斑鳩産業まつり

銀座 NAGANO 蕎麦ウィーク 等

【事業をやってみて】

参加したイベントでは多くの方が飯島産の手打ち蕎麦を楽しんでいただけた。

「蕎麦の町飯島」をPRするためのチラシも配布し、多くの方の関心を集めることができた。

【ここがポイント!!】

- 手打ち蕎麦を提供をすることにより、飯島町が蕎麦の種の生産を行っている事等をPRしながら、町民とのふれあいができ、蕎麦の消費拡大にもつながる。



ぶら まち
ぶらり発見！まちづくり

事例 12

南信州アクティビティプロジェクト 南信州アクティビティパーク 事業



実 施 年 度
平成 28 年度 ~



【この事業の目的】

千人塚公園を中心とした大自然を生かし、誰もが楽しむことのできる「自然と共存するアクティビティ」を活用したイベントを実施することにより、交流人口の拡大を図るとともにアウトドアの普及に繋げ、飯島がとても楽しい場所であることを町内外の住民に認識してもらう。

【事業内容】

南信州アクティビティパークの開催

- アウトドア体験
- クラフトブース
- フードブース

【事業をやってみて】

町では初開催となるアウトドアスポーツ総合イベントだったが、町内外から、特に県外からも多くの方が御来場いただいた。

当日実施したアンケート結果から、20～40代の参加者が多くを占め、子どもだけでなく大人からの注目も高かったことから、アウトドアスポーツに対する注目の高さを知ることができた。

【ここがポイント!!】

- 企画立案や運営については地元の若者を中心として行う。
- 来場者だけでなく、参加してもらうスタッフにもイベントを通じた地域資源を再発見してもらう。

事例 13

飯島音頭復活プロジェクト実行委員会

飯島音頭復活プロジェクト 事業



実施年度
平成 29 年度



【この事業の目的】

飯島町民が親しんできた飯島音頭が踊られなくなってしまっている現状がある。

町の文化である飯島音頭を復活させ学校行事等で定着させることで、子どもたちに飯島ならではの思い出を残すことにより、郷土愛を育む。

【事業内容】

- ・踊りを収録したプロモーションビデオを制作
- ・音源を再収録
- ・飯島音頭の歴史の研究
- ・作成したプロモーションビデオの一般公開

【事業をやってみて】

プロモーションビデオ制作では、PTA 役員や学校、児童や保護者との協働作業により撮影を行った。

飯島音頭の歴史研究では、町や学校等関係者の協力で経過を一冊にまとめることができた。

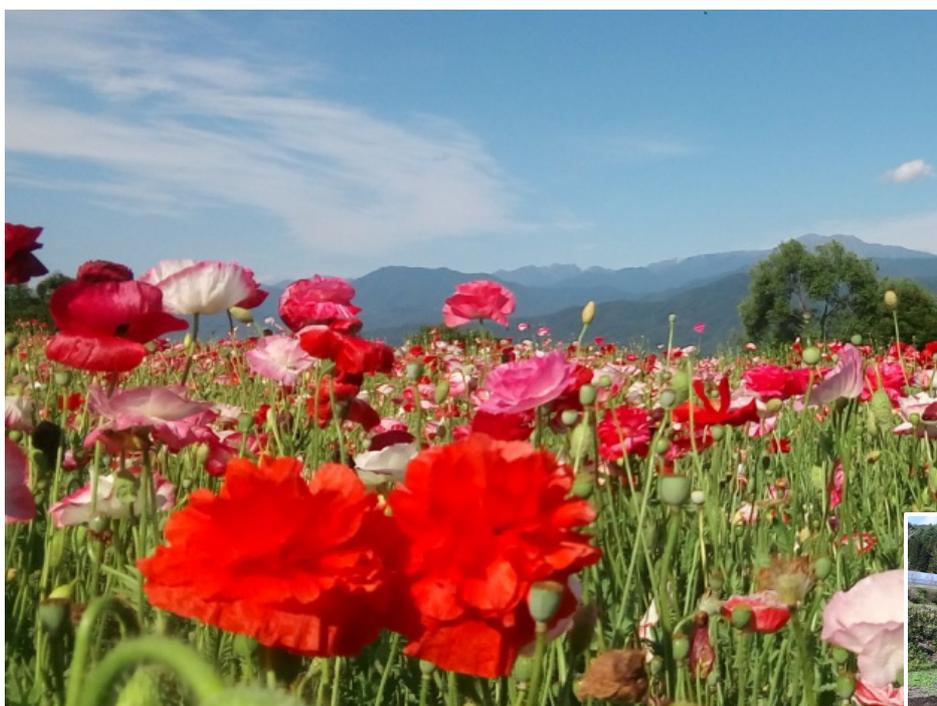
【ここがポイント!!】

- 飯島音頭のプロモーションビデオ制作にあたり、飯島町内の名所や特産品を活用した撮影を行うことにより、飯島町の知名度向上とイメージアップにつなげる。
- 子どもたちに飯島ならではの思い出を残すことにより、飯島町への郷土愛を育む。

事例 14

あぐりの丘花クラブ

あぐりの丘ポピー園 事業



実 施 年 度
平 成 2 8 年 度 ~



【この事業の目的】

アグリネーチャーいいじま周辺にポピー園を設置し、花による美しい飯島町を地域住民から発信し、地域活性化を図る。

【事業内容】

- ・ポピー園の圃場造成
- ・試験栽培
- ・管理運営

【事業をやってみて】

ポピーの種播種作業では、会員の他、飯島町営業部と連携し実施することができた。

試験栽培を経て追い播きを行ったことで次年度はより美しい花畑となる。

花による美しい飯島町を地域から発信するとともに、開花時期に合わせたイベントの実施を検討し更なる地域活性化を目指したい。

【ここがポイント!!】

- 将来のアルプスお花畑構想の実現に向け、地域住民主導によるボランティア作業でポピーによる花畑づくりに取り組む。